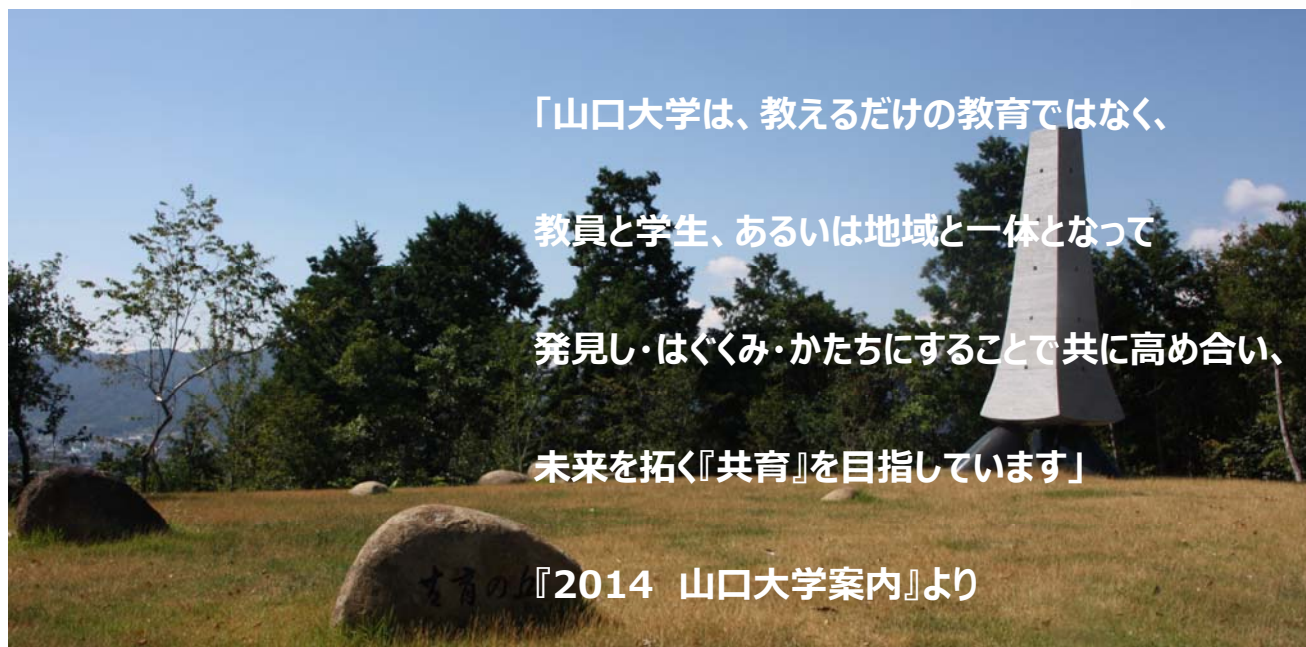


# 共育の丘だより 創刊号 2014 春

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、  
教員と学生、あるいは地域と一体となって  
発見し・はぐくみ・かたちにすることで共に高め合い、  
未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

## 創刊の辞

山口大学は、1996年の教養部改組を機に共通教育センターを学内措置で設置しました。同センターは、2002年4月に文部科学省の省令施設として「大学教育センター」に名称を改め、専任教員を置く全学教育研究施設に生まれ変わりました。設置の目的は本学の教育活動の充実発展に寄与し、共通教育・専門教育を体系的に捉えた教育システムを構築・実施することです。

山口大学の学士課程教育は、自らが“発見し・はぐくみ・かたちにする”ことを通じて、真に人間的な平和・幸福・豊かさを探求し、実現するための礎を築くことを理念としています。この理念に込められた“発見し・はぐくみ・かたちにする”というプロセスは、問題解決の思考法として近年注目されている「デザイン思考」のプロセスに他なりません。学士課程教育は、ある特定の専門分野を修めさせるだけでは十分でなく、「デザイン思考」のプロセスを実践することのできる人材を育てることができて初めて社会の要請に応えたことになるのだと思います。

そのような学士課程教育の構築を目指す第一歩として、2013年度から本学の共通教育が一新され、教養コア科目8単位、英語科目6単位、一般教養科目16単位の計30単位を、すべての学部（共同獣医学部を除く。）の学生が必修科目として履修することになりました。これは、学士課程教育改革の第一歩です。これからの山口大学の歩みに注目して頂ければ幸いです。

（糸長 雅弘 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

## INDEX

- P1 創刊の辞
- P2 新しい共通教育始動の1年！
- P3 新しい共通教育、何が変わった？
- P4 YAMADAI NEW WAVE!
- P6 学生FDサミット2014春 参加記
- P7 やまぐち探訪記
- P8 学生FDスタッフ募集、編集後記

(2014.3.20)

# 新しい共通教育始動の1年！

## FD・SDって何だろう？

### はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

## 2013年度は、新しい共通教育始動の1年

2013年6月に開催された第61回中国・四国地区大学教育研究会において、糸長雅弘 大学教育センター長が本学の共通教育改革の経緯や内容について講演を行いました。本学の取組のほか、島根大学や高知大学における共通教育改革の取組も紹介され、フロアとの活発な情報交流が行われました。近年、社会人基礎力や汎用的能力の重要性が求められる中で、学士課程教育における共通教育のあり方が大きく問われ、多くの大学において新たなカリキュラム編成の取組が進められており、本学においても、他大学等の情報収集に努めながら、更なる充実を図る必要があります。

また、2013年8月には、本学において全学FD講演会が行われ、新しい共通教育で推奨されているアクティブ・ラーニングの先進事例について学ぶ機会が提供されました。同講演会は、大学コンソーシアムやまぐちが共催となり、山口地域の公立・私立大学からの参加者も大勢を数え、関心の高さが窺われました。

さらに、2014年3月には、新しい共通教育で新設された授業科目「山口と世界」における到達目標や成績評価の標準化を目指して、ルーブリック開発を目指したFDワークショップを行いました。ルーブリック開発においては、大学教育学会の支援を受けて行うものであり、本学における学修成果測定の実質化に向けた第一弾の取組として推進していきます。

第61回中国・四国地区大学教育研究会での講演風景



教育改善FD研修会風景



## 教育改善FD研修会 での意見交換

2013年度、各学部等における教育改善FD研修会では、新しい共通教育について意見交換を行いました。クォーター制の導入に伴う、学習者中心の教え方への変更や初修外国語の選択幅の改善など、幾つかの課題が浮き彫りとなりました。これらの意見を踏まえながら、今後の共通教育の更なる充実を考えていきたいと考えています。

# 新しい共通教育、何が変わった？

## 教員にインタビュー！！

取材にご協力いただいたのは、大学教育センター副センター長 **小川 勤 先生**。  
新しい共通教育が始まり、実際に授業を行う教員の立場からはどう見えているのか。実際の声を聞くためにお話を聞かせていただきました。

**Q. 新カリキュラムとなり、旧カリキュラムと比べ最も大きく変化した点はどこですか？**

A. 学生全体に共通した教育となった点です。従来の共通教育は、各学生が自分の学びたい科目を自由に組み合わせて履修する形式だったのに対し、新しい共通教育は学生ごとに履修する科目が一貫されています。例えるなら前者はカフェテリア方式、後者は定食方式と言えますね。

**Q. 学生との関わり方にはどのような変化がありますか？**

A. 今後は知識注入型の授業から学生を中心とした能動的学習へと転換していかなければなりませんから、まずは学生たちが自分で考えることから学習を始められるように接していかなければなりません。

**Q. 共通教育科目と専門教育科目との繋がりはどうなりましたか？**

A. 深くなったと言えます。共通教育の必修単位が約10単位減少し、それが専門教育の基礎に振り分けられたためです。

**Q. 新カリキュラムの授業で印象に残った出来事がありますか。**

A. 「山口と世界」を受講した学生の一人が「学習の仕方が懐かしい」と言っていた事ですね。中学、高校では生徒主体となる授業が少なく、能動的に自らが動いて学ぶ場が減少している事を改めて感じました。やはりグループワークや他人の意見を取り入れるような場は必要であるでしょう。

**Q. 小川先生の考える理想の共通教育とはどのようなものですか。**

A. 専門教育を受ける前に必要となる土台になる事はもちろんのこと、人としての生き方に影響を与えられるような教育をしていきたいと思いません。

**Q. 新しい共通教育の受講学生に一言をお願いします。**

A. 選択の幅が狭まり、学習意欲が低下したのではないかという声を各所から聞いています。しかし、その限られた中でも自分の将来像やキャリアを意識して学びを深めていってほしいと思います。大学での四年間の中で、勉強だけでなく課外活動も大事にし、トータルでの人間力を高めてください。



## 一年生にインタビュー！！～共通教育を終えて～

キャリア教育のための授業の中で、自分の知らなかった世界を知るきっかけとなりました。討論形式の授業の中では自分の意見をしっかりと持つ事が大事であり、高校と違って大学は順序立てて考えたり、文章としてまとめたりする力が身に付く場所だと感じました！

人文学部 Kさん

高校には無いような幅広い分野の勉強が出来、様々な知識を得る事が出来ました！授業内で学生同士の意見交換もあり、その中で面白い発想をする練習が出来たと思います。共通教育で学んだ事が専門教育の科目で登場することもあり、そういうときに授業間の相互の繋がりを感じます。

教育学部 Mさん

共通教育という場であるがゆえに様々な学部の学生があり、多様な考え方に触れることで新たな視点を発見する事が出来たと思います。授業がほとんど固定されており、自由度が少ないことにやや不満を感じましたが、自分から進んで学ぼうとしないことも半強制的に学ぶ事になるので勉強になった事も多かったです！

医学部 Sさん

# YAMADAI NEW WAVE!

## 共育ワークショップ2013

### 『みんなで山大の教育（共育）について語ろう！』

共育ワークショップ2013「みんなで山大の教育（共育）について語ろう！」は、2013年9月24日（火）午後、山口大学吉田キャンパスにて、同大学の教員・職員・学生総勢80名近くが参加して開催されました。山口大学創基200周年記念として開催されたイベントは、同大学として新たに企画された参加型ワークショップで、本学の教育理念である共育（共にはくむ）の場を創出し、教員・職員・学生が共に、大学教育のあり方を考え、学び合うことの大切さを自覚することを意図したものです。冒頭、丸本卓哉学長より開会挨拶があったほか、糸長雅弘 大学教育センター長より趣旨説明があり、廣中元学長が中心にまとめられた、「廣中レポート」（2000年6月）を基点とした学生参画型FDの全国的な動きに言及しながら、本ワークショップのねらいについて説明がありました。

今回のワークショップでは、知識創造の技法を使ったグループワークを通して、所属や立場の違いを超えた参加者同士の対話により「今、求められる人材像」を育成するためのアクションプランの設計を目指しました。後半の全体発表では、林透 大学教育機構大学教育センター准教授の進行により、グループ発表が行われ、「自分の考えをしっかりと持つことができる人材」や「様々な人間関係の中で新しい価値を創造できる人材」などの意見が出されました。最後に、瀧澤理事・副学長より閉会挨拶があり、本学における教育・学習の方向性に新たな契機を与える機会となりました。



### \* 共育ワークショップ2013準備委員会メンバーからのたより

共育ワークショップでは、多くの山口大学の職員や先生方、学生さんとの交流を通じ、さまざまな考え方に触れることができました。またワークショップの作業を通じ、「なりたい自分」を明確にすることで、自分に今必要なものを見出すことができました。普段なかなかこうしたことを考える機会はありませんでしたが、「自分がなりたいビジョンを見つめたうえで行動した方が、何事をするにもきっと楽しい」と今回のワークショップを通して感じました。

（共育ワークショップ2013準備委員会メンバー 善明 香央梨 山口大学人文学部人文社会学科歴史学コース4年）

# YAMADAI NEW WAVE!

## SDセミナー2013『大学職員としてのチャレンジ』

山口大学では2013年12月6日（金）、山口大学SDセミナー2013『大学職員としてのチャレンジ ～大学職員として何をすべきか～』を、県内の公私立大学はもとより遠くは静岡大学や大学評価・学位授与機構からの参加があり160名以上を集め、山口大学吉田キャンパスにおいて開催しました。大学マネジメント研究会、大学コンソーシアムやまぐちの共催を得て、職員同士の交流、大学間交流にとっても大変有意義な機会となりました。

第一部の基調講演では、上杉 道世 慶応義塾大学信濃町キャンパス事務長（大学マネジメント研究会副会長、東京大学元理事）より、「未来に向けた大学職員の役割」と題して講演がありました。近年や将来に向けた大学を取り巻く環境の厳しい変化、東京大学理事の時代に推進された「事務職員等の人事・組織・業務の改善プラン」を取り上げながら、「大学経営を人任せにはいけない、個々人で何が出来るかを考えていかないとその大学は衰退する」という強いメッセージが投げ掛けられました。

第二部のグループワークセッションでは、林 透 山口大学大学教育機構大学教育センター准教授のファシリテーションにより、「Let's Challenge ～未来に向けて大学職員として何をすべきか～」というテーマでグループワークを行いました。後半の全体発表では、若手職員・幹部職員がプレゼンを行い、「行動力の大切さ」「目的意識を持つこと」「教職員の信頼関係の構築」「もの言える職員となること」など、前向きな意見が多数出されました。



### \* 山口大学SDセミナー参加者からのたより

今回、始めてSDセミナーに参加し“大学職員として何をすべきか”について、大学、部局、役職そして世代を超えた職員が一つのテーブルで議論することは、日々、目の前の業務で一杯な自分自身にとって改めてこのことを考え、自己啓発の機会となりました。そして、人の前で話をするのは苦手なこれまでなるべく避けていましたが、セミナーのテーマでもある『チャレンジ』としてグループの発表者に手を挙げてみました。普段交流も少ない大勢の前で緊張もし、グループのまとめも分かりやすく伝えることが出来なかったですが、まず行動することから始め、経験と失敗を重ねながら苦手なことでも克服していけるように『チャレンジ』を続けたいと思います。

（藤林 聖司 山口大学 施設環境部 施設整備課 機械整備係長）

# 学生FDサミット2014春 参加記

学生FDサミット2014春は、2014年3月8日(土)、9日(日)の二日間、東洋大学白山キャンパスにて開催されました。東日本でのサミット開催は今回が初めてであり、65校、300人を超える学生及び教職員が参加しました。

全体テーマとして掲げられた『あなたがつくる、大学最大大作戦 ～めざせ意識改革～』のもと、自大学をより良くするためにはどのような活動を行うべきか、また、学生FD活動は今後どうあるべきかという二つの視点を中心とし、様々な企画が行われました。

## 一日目：3月8日(土)

10:00～10:20 1日目オープニング

10:20～10:50 学生FD概論 I

10:50～11:35 今が旬！学生FD活動取り組み紹介

11:35～11:45 ワーク(自大学分類など)

13:30～16:50 分科祭の部(プレゼンテーション、  
ディベート、ポスター発表など)



一日目には、まず学生FDの概念の再考としてプレゼンを中心としながら学生FD活動に関する基礎知識を学ぶ「学生FD活動概論 I」が行われました。また、「今が旬！学生FD活動取り組み紹介」として日本大学文理学部 学生ワーキンググループ、筑波大学 全学学類・専門学類代表者会議 教育環境委員会の二者の取り組みが紹介されました。プレゼンの合間に小ワークも行われ、自分なりに考えるFDの定義や自大学の分類を通し、自大学で行うべき学生FD活動とは何であるかを考える基盤となりました。午後の部では「分科祭の部」と称される企画が行われました。これは、用意された6種類の企画から各個人が自由に選択し、参加するという学生FDサミットではこれまでに行われた事のない新企画でした。企画の内容は多種多様であり、ディベートでは大学教育についての意見を積極的に交わし合い、ポスターセッションでは他大学の活動状況や新しい人脈を得るなど、企画により違った視点が得られる場となりました。

二日目には学生・教職員合同テーマ別しゃべり場が行われ、他大学のひとと各テーマについて考え合い、そこで得られた情報を基に自大学について再考するきっかけとなりました。しゃべり場の後には成果報告会が行われ、更にそこで得られた情報を持ち寄って本サミットのテーマである大学最大大作戦を作成しました。ファイナルセッションでは「学生FD活動の今後の方向性を問う」というテーマが掲げられ、参加者全員で考える機会が設けられました。立命館大学 教育開発推進機構の沖裕貴先生の講演の中では、学生FDスタッフには高等教育に関する高い専門性が必要であり、より効果的な活動を行っていくためには十分な専門性訓練と学生が自ら深い研鑽を積もうとする姿勢が必要となることが挙げられました。今サミットへの参加は、「学生FD」という枠組みに囚われず、学生らしい自由な発想を教職員や他大学の方と共有しながら、より良い山口大学作りに向けた活動の開始点となったと言えます。

## 二日目：3月9日(日)

9:30～ 9:50 2日目オープニング

10:00～11:50 学生・教職員合同テーマ別しゃべり場

12:00～12:45 しゃべり場成果報告会

13:00～14:15 自大学の大学最大大作戦作成

14:30～15:35 ファイナルセッション

「学生FD活動の今後の方向性を問う」

15:45～16:00 サミットエンディング



## 【参加者の感想1（理学部2年 杉元 茜）】

学生FDサミットへの参加は山口大学としても私個人としても初めての事で、イベント開始までは不安で仕方がありませんでした。しかし、他大学の学生や教職員の方々と交流するうちに気付けば不安感は払拭されており、最初から最後まで心から楽しむことが出来たように思います。サミット中、あらゆる企画及び場所で「学生FD活動は自己目的化してはならない」という言葉を何度も耳にした事が深く印象に残っています。何かしら行動を起こすことを目的とするのではなく、その行動の先のフィードバックが不可欠であるのだと強く感じました。

今回のサミットへの参加が自己満足で終わらないためには、得られた多くの情報や知識を山口大学のために広報、共有することが必要であり、そのためには山口大学に関わる少しでも多くの人に学生FD活動のことを知っていただかなければならないと私は考えています。今後は山口大学において『共育』をカタチにするための活動としての学生FD活動を進めていくほか、「まじめさの中に楽しさ」をモットーに大学生活を充実させていきたいと思います。



## 【参加者の感想2（経済学部1年 奥田真也）】

今回、学生FDサミットに初めて参加し大変多くの刺激を受けたように感じました。そもそも「学生FDって何だ？」という所からサミットに参加した自分でしたが山口大学について、どうすればもっとより良い大学になるのかと他大学と比べながら再考することができました。サミットに集まった65校の大学の学生の多くは「イベントを企画する」ということについて、すでにいくつも経験されている方や興味を持っている方ばかりです。私自身もイベント企画の団体に所属しているということもあり、大先輩の方々に多くのアドバイスをもらったり、同年代と熱く語ったりとFDについて以外にも得るものは大きかったですね。

私が今回のサミットを通して一番感じたことは、大学生はとても面白いということです。やろうと思えばなんだってできるし、いくらでも学びの視野を広げられる。でもそんな面白い学生がいることを知るためには、自大学だけにとどまらない大学同士の横のつながりが必要です。今サミットで私が出た多くの出会いやつながりを今後も継続していくものにして、他の学生にもフィードバックしていきたいと感じました。



## やまぐち探訪記（西田幾多郎旧宅） ●●●●●

東洋哲学の巨人、西田幾多郎が、山口大学にゆかりがあることをご存知でしょうか。明治30年代の約2年間、山口大学の前身である旧山口高等学校で英語とドイツ語の教員として在籍していました。

何と、西田幾多郎が当時住んでいた旧宅が現存しています。場所は、山口市中心部の下館小路で、大内家ゆかりの龍福寺そばにあります。老朽化に伴い解体されるという話もあるようですが、山口大学の歴史を語る上で重要なモニュメントではないでしょうか。西田幾多郎が著した「場所論」は、今日にも影響力を与え、人間社会における「場」の力、重要性を訴えかけるものです。皆さんも散策がてら、一度、訪れてみてはいかがでしょうか。





お問い合わせや  
学生FDスタッフ登録申込  
は、下記連絡先まで!

山口大学 大学教育機構  
大学教育センター  
TEL:083-933-5067

Mail:  
foru-heyamaguchi-u.ac.jp

Web サイト:  
www.epc.yamaguchi-u.ac.jp

編集チーム:

林 透  
(大学教育センター准教授)  
杉元茜  
(理学部2年、学生FDスタッフ)  
朴珉嬌  
(理学部2年、学生FDスタッフ)

発行:  
大学教育センター

(2014年3月20日 発行)

## 編・集・後・記・

★ニュースレターの編集作業並びに記事作成のための学生・教員インタビューやサミット参加などの各活動は、私にとって何もかもが初体験の連続でした。至らぬ点や手の届かない点多々あった中、終始楽しんで活動を進めることが出来たのは、何度も意見を交わし合った林先生や朴さんをはじめとして、取材に応じてくださった教員及び学生の皆様と共に学生FDサミットに参加した奥田さんなど、関わってくださった全ての方の支えがあってこそだと深く感じます。このニュースレターが読んで下さった皆様の心のどこかに残り、山口大学の『共育』に関心を寄せるきっかけになれば幸いです。

理学部 2年 杉元茜

★何もかもが初めての体験でした。私自身、最初にお誘いがあった時は「学生FD活動って何だ?」と思っていましたが活動を通して徐々に理解が深まり、私なりの解釈ですがFD活動は山大的掲げる教育「共育」と通じているんじゃないかなと思いました。みんなで考えてみんなで変えていくもの、という印象をとっても受けました。林先生、取材に協力してくださった教員、学生の皆様、スタッフのみなさん、ありがとうございました。

理学部 2年 朴珉嬌

大学教育は、大学教職員、学生、市民をつなげます